

二宮小学校だより



にのみや学園
二宮町立二宮小学校学校だより
令和5年度第5号(11/8発行)

10月19日(木)から25日(水)まで行われた「学校へ行こう週間」では、大勢の保護者の方や地域の方にお越しいただきました。皆様にはお忙しい中、学校の様子や学級・学年の様子、そして子どもたちの様子をご覧いただき、ありがとうございました。

さて、今月の月目標は「**友達の輪を広げよう**」です。24日(金)には「にのっこウォークラリー」が予定されています。これは、1年生から6年生までの交流班(13人~14人)で校内を巡り、それぞれの教室に用意されているゲームに挑戦するものです。当日はもちろんですが、計画を立てる際も、班のメンバー全員で協力することが大切です。めざすものは、月目標にもあるように、学級、学年を越えての友達づくり、仲間づくり、そして友達の輪を広げることです。

～4年ぶりとなった全校音楽会～

11月1日(水)、全校児童が一堂に会しての校内音楽会が開かれました。コロナ禍の際は、ブロック別に行ったり、動画配信の形をとったりと工夫しながら伝統ある音楽会を続けてきました。今回のように、全校児童がそろっての音楽会は実に4年ぶりとなります。したがって、1年生はもちろんですが、4年生までの子どもたちは、入学してから初めて全校児童の前で演奏したということになります。

当日のプログラムは、児童による「はじめの言葉」、全校合唱「ピリッ」の後、各学年の演奏となりました。



今年のテーマである「息を合わせて心に残る音楽会にしよう」のように、各学年とも息の合った、そして、その学年の子どもたちの良さが存分に表れた音楽会でした。会の最後は児童による「おわりの言葉」。特に6年生にとっては小学校6年間で最後の音楽会だったことが語られました。

子どもたちは、この音楽会を通してどのようなことを学んだのでしょうか。また、どのよう

なことを感じたのでしょうか。練習したことが実を結んだ達成感、歌を精いっぱい歌い、楽器を一生懸命に演奏した満足感、友達と一緒に歌ったり、演奏したりすることの良さ、他学年の演奏を聞くことの楽しさ、上学年の演奏からこれからの目標を見出したことなど、様々だと思います。

子どもたちに願っていることは、この音楽会を通して学んだこと、感じたことをこれからも大切にしてい、そして、時おり思い起こして生活の中で生かしてほしいということです。



～にのみや学園プロジェクト 小中児童生徒交流会～

小中児童生徒交流会は、今年度開校した施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」のプロジェクトの一つとして行っているもので、年3回計画されています。6年生が中学校の授業を見たり、部活動を体験(見学)したりすることで、中学校へのイメージをもち、これまで以上に安心感をもって中学校に進学することを目的としています。

9月27日(水)の1回めは、6年生が中学校を訪れ、授業を参観し、生徒会による中学校生活の説明を聞き、そして部活動の見学をしました。

授業参観では、文化祭の準備としてクラスごとにステンドグラスを協力して作っている様子や各教科の授業の様子を見学し、その後、中学生の1日の生活や休日の過ごし方、テスト前の心得などについての説明を聞きました。そして部活動見学では、自分が興味のある部活動を中心に、熱心に練習したり、作業を進めたりしている中学生の姿をあこがれの眼差しで見つめていました。



2回めの10月27日(金)には、中学3年生

が「Keep on 二宮（キーボン二宮）」というテーマのもと総合的な学習の時間において取り組んだことを発表する、その様子を参観しました。

6年生が中学校の授業を参観し、その内容にふれたり、中学校の授業への見通しを持ったり、また発表内容について一緒に考えたりと、5か月後に入学する中学校へのイメージをふくらませることができたのではないのでしょうか。

発表を聞いている6年生は、注意深く耳を傾けたり、熱心にメモと取ったり、また中学生からの問いかけに答えたりと、「参観」ではなく「参加」しているような感覚だったと思います。



～5年生の野外活動教室～

10月6日(金)、5年生が県立足柄ふれあいの村での野外活動教室に参加してきました。

当日は、秋晴れの爽やかな空気に包まれ1日が始まりました。到着してからの最初のプログラムは入村式です。代表の子どもたちによるめあての発表の後、ふれあいの村の方から歓迎の言葉をいただきました。

その後、すぐに昼食のカレーライス作りに取りかかりました。最初の関門は火起こしです。どのように薪をくべたらよいのか、どのように火をつけたらよいのか、どのように空気を送ったらよいのか、試行錯誤の連続でした。第二の関門は火の強さや時間に気を配りながらの炊飯です。焦げやご飯にかたさが出てしまった班もありましたが、どの班も満足できる炊きあがりだったようです。もう1品のカレー作りは、水の量や野菜の切り方、肉の炒め方に十分気を配ったようで、どの班も上手にでき上がりました。



そして、でき上がったカレーライスの一皿を口に運ぶときのうれしそうな表情が何とも言えません。食べている表情から「自分たちが苦労して作ったカレーライスは格別だ。」そんな思いが伝わってきました。

食後は、用具やかまどなどの片づけです。「借りたときよりもきれいに」そのような気持ちで用具を洗ったり、かまどのまわりをはいたり、炭を片づけたりと、それはそれはやらなければいけないことが盛りだくさんです。その中でも最も苦労したのが鍋を洗うことです。外側はすすで真っ黒になり、内側はカレーやご飯がこびりついていたので、金だわしで何度も何度もこすりました。



午後のプログラムは5年生全体でのレクリエーション。「おまつりやさん」「10秒間、30秒間、1分間ゲーム」「マイムマイム」でお互いの絆を深めました。



この日最後のプログラムは退村式。代表の子どもたちから、「今日気を付けたことは、班のみんなと協力することです。」と、野外活動のめあてを心がけて1日を過ごせたことが伝えられました。そして、お世話になったふれあいの村の方に感謝の気持ちを伝え、1日の幕が閉じました。

～創立 150 周年に寄せて～

●山西小学校開校

二宮小学校と一色小学校の児童数が増えたため、1977年(昭和52年)に、町内で3校めの小学校として、山西小学校が開校しました。それに伴い、二宮小学校に通っていた中里地区、越地地区、釜野地区、茶屋地区、川匂地区の1年生から5年生までの児童は山西小学校に移りました。

山西小学校が開校する前年の本校の児童数は1,678人でしたが、開校した1977年は、1,075人となりました。

●耐震補強工事

2003年(平成15年)から2004年(平成16年)にかけて、地震に備えた耐震補強を校舎と体育館に施しました。

[参考文献:「二宮小学校沿革誌」]